

平成29年度 地域ぐるみで「体験の風をおこそう」
運動推進事業 サイエンススクール

～ワクワク★ドキドキ★科学のふしぎを体感しよう！～



1. ねらい

ワクワク・ドキドキするような科学実験や体験、研究者とのふれあいの機会を通して、子どもの科学に対する興味・関心を深め、知的探求心や創造性を育てる。

2. 実施日

平成30年2月17日（土）～18日（日）1泊2日

3. 対象

小学校4～6年生

4. 参加者 / 募集定員

85名 / 80名

5. プログラム（要約）

近畿大学名誉教授 木村隆良氏、近畿大学工業高等専門学校准教授 鈴木隆氏を講師に招き、近畿大学理工会化学研究会の学生スタッフ（以下学生スタッフ）とともに8種類の体感実験を行い、12種類のサイエンスショーを観た。

スケジュール

1日目

【体感実験】

- ・極低温の世界（マイナス200℃）
- ・錬金術（テルミット反応）、アルコールの燃焼
- ・空気の中身の探索
- ・高吸水性ポリマーでアロマ発生器の作成

【サイエンスショー】

- ・魔法のメスシリンダー
- ・不思議な箱
- ・燃え上がる手
- ・液体窒素、液体酸素
- ・空き缶つぶし
- ・浮き上がるボール
- ・真空バズーカー
- ・ゴムの性質
- ・音が見える
- ・静電気の実験
- ・空気砲
- ・水素の早い燃焼

2日目

【体感実験】

- ・スライムとスーパーボール
- ・音のふしぎと吹奏楽器
- ・不思議なロウソク（炎色反応）
- ・コロイドの性質

【1日目】

参加者は、学生スタッフから実験方法や化学反応についての説明を受けながら、4種類の実験に取り組んだ。それぞれの実験で起こる不思議な現象を楽しんでいた。



夜は「サイエンスショー」と題して、講師が行う12種類の実験を観たり体感したりした。手が燃え上がる様子や空気砲等、次々に繰り出される形や色の変化、音や振動を体感する実験に驚きの歓声が上がっていた。



【2日目】

朝食後、4種類の体感実験に取り組んだ。自分で製作し、実験で使ったものを持ち帰ることができ、参加者たちはとても喜んでいた。



6. まとめ

科学漬けの2日間を過ごす中で、たくさんの実験をし、参加者は理科や科学に対する関心がより一層増したようだ。実験を行った講師や学生スタッフとふれあい、目を輝かせながら話を聞く様子が印象的であった。

今後も近畿大学・近畿大学工業高等専門学校と連携し、子どもたちがワクワク・ドキドキできるような企画を打ち出したい。

（企画指導専門職 上田 考浩）